

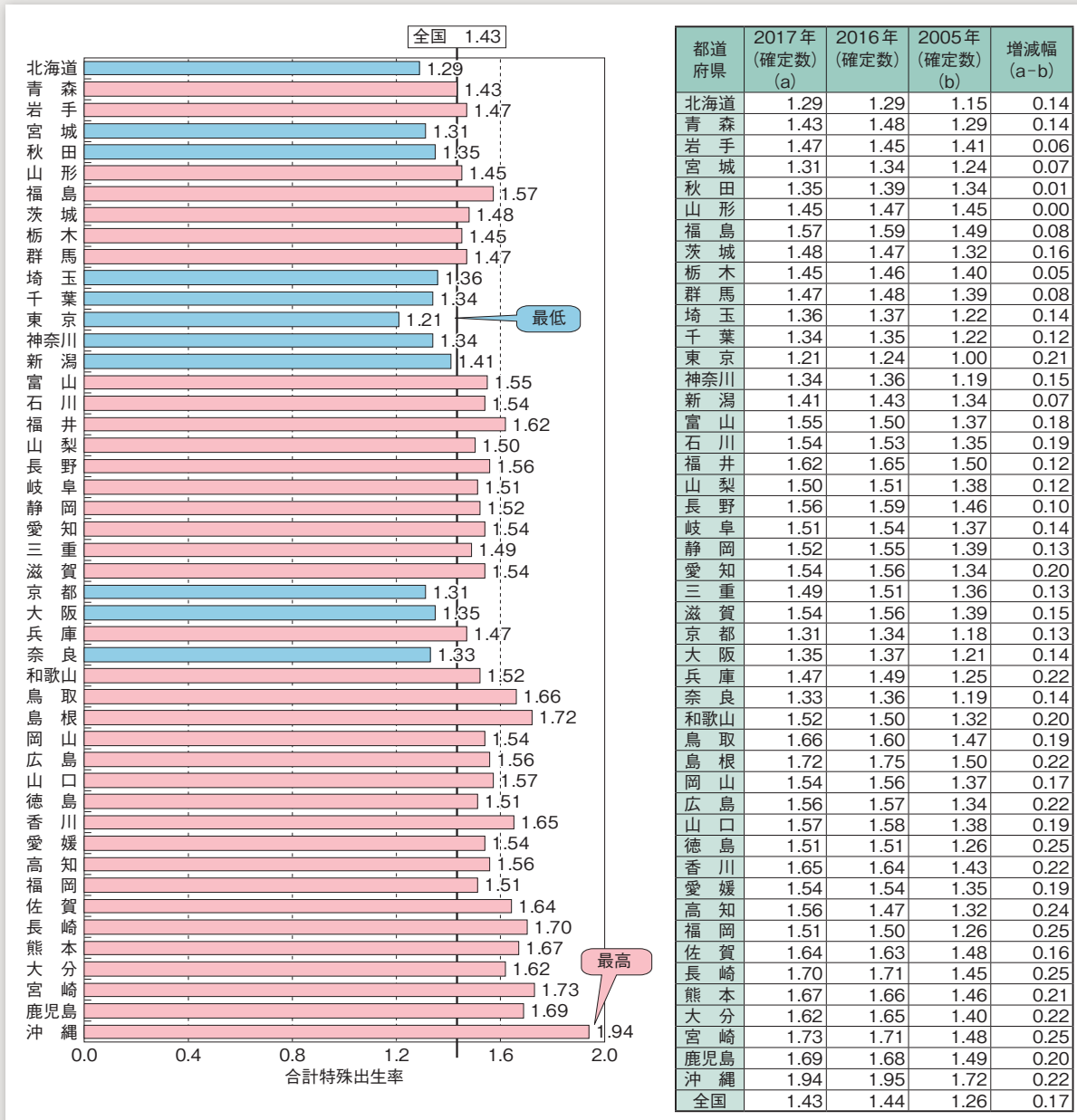
7 地域比較

都道府県別合計特殊出生率の動向

2017（平成29）年の全国の合計特殊出生率は1.43であるが、47都道府県別の状況を

みると、これを上回るのは35県であった。合計特殊出生率が最も高いのは沖縄県（1.94）であり、次は宮崎県（1.73）となっている。最も低いのは、東京都（1.21）であり、次いで北海道（1.29）となっている。（第1-1-49図）

第1-1-49図 都道府県別合計特殊出生率(2017年)



資料：厚生労働省「人口動態統計」

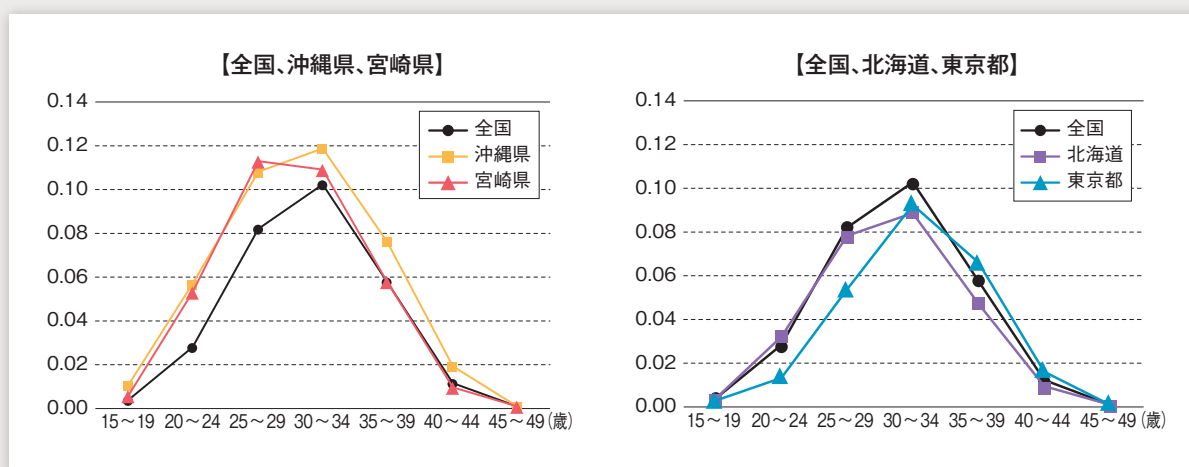
都道府県別の年齢別出生率

都道府県別の年齢別出生率をみると、全国の中でも合計特殊出生率の高い沖縄県、宮崎県は、いずれも20～34歳の出生率が全国水準よりも高くなっている。

一方、全国の中でも合計特殊出生率が低い

東京都、北海道はそれぞれ異なる動きをしている。東京都では15～34歳の出生率が全国水準より低いのに対し、35～49歳では高くなっている。北海道では15～29歳の出生率が全国水準並となっているのに対し、30歳以降の年齢では低くなっている。(第1-1-50図)

第1-1-50図 都道府県別の年齢（5歳階級）別出生率（2017年）



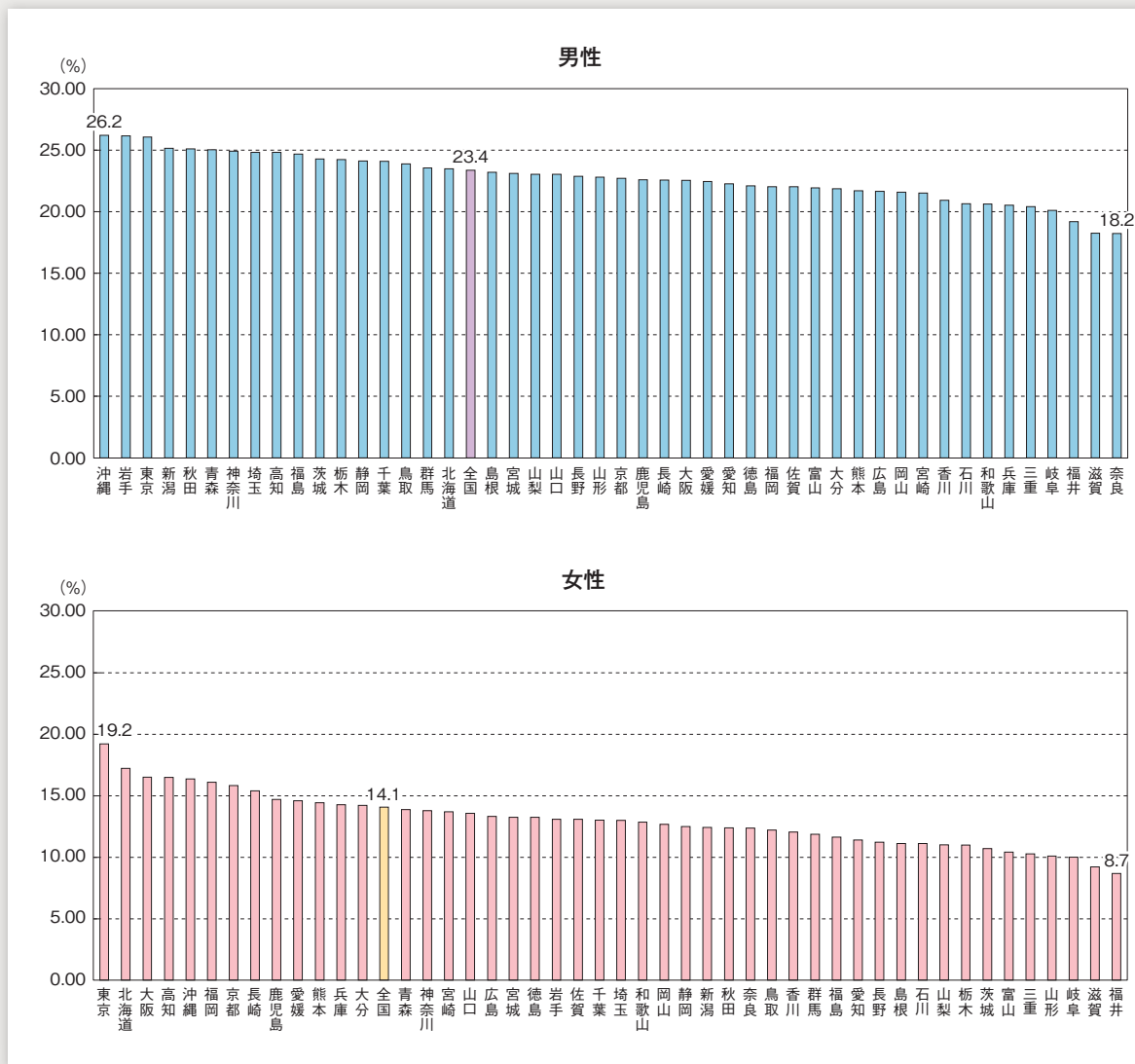
資料：別府志海・佐々井司「都道府県別にみた女性の年齢（5歳階級）別出生率および合計特殊出生率：2017年」『人口問題研究』第74巻第4号、2018年12月、表1を基に作成。

都道府県別50歳時の未婚割合

2015（平成27）年の全国の50歳時の未婚割合をみると、男性で23.4%、女性で14.1%となっているが、47都道府県別の状況のみ

ると、これを上回るのは男性で17都道府県、女性で13都道府県となっている。この中で50歳時の未婚割合が最も高いのは、男性で沖縄県の26.2%、女性で東京都の19.2%となっている。（第1-1-51図）

第1-1-51図 都道府県別50歳時の未婚割合（2015年）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」を基に作成。